

まどい

第196号

秋田県羽後町仙道中学校昭和30年卒

1955（昭和30年）創刊

2010年5月20日発行

186-0003 東京都国立市富士見台 3-6-404
tel/fax 042-574-8694 ・直 090-2332-4408

まどい編集室

http://www32.ocn.ne.jp/~madoi/
mail: madoi30s@cc.mbn.or.jp

伝統的工芸品産業功労者表彰

またひと

同級生の自慢人!

は「西馬音内
盆踊り」の時
に踊り手がか
ぶる編み笠の
制作でした。

現在編み笠を制作しているのは町内で
だ一人ということですよ。

我が同級生は本当に

すごい人が多い

すでに、地元の方たちはもち
ろん知っていることなのですが、

このたび阿部アイさんが「伝統

工芸功労者表彰」という

すごい表彰を受けられま

した。

秋田県で二人の方が対

象となり、その一人がア

イさんだったのです。

表彰の対象となったの

国指定重要無形民族文化財にも指定さ
れている西馬音内盆踊りは、踊り手の顔
を隠す笠が重要な役割を果たしているの
です。

日本の各地にも編み笠はあるのですが、

アイさんの作る笠は前後に独特の反りが

あるのです、この半月型が踊り手の感情

を包み込み、夏の夜の幻想的な世界を醸

し出して居るのです。

また、アイさんは編み笠作りの傍ら、一

人三役をこなしていたのです。主婦、おば

あちゃん、そして、母親です。そして三人

の孫の母親です。よく体も、精神も耐えて

いるものと、驚くばかりです。

ご主人と二人の共同作業については伝統

工芸功労者の表彰を受けたのです。ほん

とうにおめでどう。これからもご主人と力を

合わせ、後継者育成のためにも元気で続け

てほしいものです。羽後町の名を高めてい

ただいただ大江町長から感謝の言葉があっ

たそうです。

こうして我が同級生が全国的にも有名に



大江町長に「編み笠」を寄贈するアイさん
(うご町ホームページより)

なると、自分のことのように誇らしい。前
には三浦浩二さん「理学博士」とか、聞いて
もさっぱりわからないが博士の称号を頂
いたし、水沢先生の叙勲褒章もあった。そ
して周りを見ると、栄治さんの竹細工・石
細工。今福建設の伝統的な入り母屋造り。
東屋造り。菊池さんの絵、芳雄さんの毎回
の「まどい」。などなどすばらしい才能の
持ち主が多い。

ちなみに私にコップを持たせたら右に…
…いや、左に出るものは無い……ってか！。

西馬音内盆踊りの編み笠

〈羽後町〉

羽後町の夏を彩る西馬音内盆踊り(国指定重要無形民俗文化財)かがり火に照らされた優雅な踊りと、勇壮な囃子が多くの観光客を魅了する。色鮮やかな装束の踊り手に欠かせないのが、編み笠だ。西馬音内盆踊りで使われる編み笠は半月形で、前後に反っているのが特徴とされる。

町企画商工課によると現在、町内で4、5人が編み笠作りに取り組んでいる。その1人、阿部アイさん(70)＝同町大戸＝は昨年度、町の推薦により、財団法人・伝統的工芸品産業振興協会の伝統的工芸品産業功労者賞を受賞した。「何よりも、町の人に認めってもらったことがうれし」と話す。

前後の「反り」が特徴

阿部さんは1995年に編み笠作りを始めた。40年以上にわたって編み笠を作ってきた池田アイさん(80)＝同町床舞＝に習い、これまで300枚以上を編み上げた。「編み笠に決まった寸法はない。

反る部分などは自分でコツをつかまないと、なかなかうまく編めるようになっていった」と話す。特徴の「反り」だが、起源や由来ははっきりしない。戦前の盆踊りの様子や伝承を伝える1935年の写真では、現在ほどではないが反りもあるものも。阿部さんは「踊り手が手が動く限り作りを続けて、次の要望で、次第に反りが強くなったのでは」と推測を告げた。(三浦ちひろ)



西馬音内盆踊りの編み笠を作る阿部さん

阿部さんは1995年に編み笠作りを始めた。40年以上にわたって編み笠を作ってきた池田アイさん(80)＝同町床舞＝に習い、これまで300枚以上を編み上げた。「編み笠に決まった寸法はない。反る部分などは自分でコツをつかまないと、なかなかうまく編めるようになっていった」と話す。特徴の「反り」だが、起源や由来ははっきりしない。戦前の盆踊りの様子や伝承を伝える1935年の写真では、現在ほどではないが反りもあるものも。阿部さんは「踊り手が手が動く限り作りを続けて、次の要望で、次第に反りが強くなったのでは」と推測を告げた。(三浦ちひろ)

右は4月5日付け「さきがけ新聞」の田崎記事「地域あらかると」です。ほかに「毎日新聞」地域版にも掲載されておりました。(飯塚和雄さん提供)

らは指定産地の川連漆器関係者と、指定外産地のアイさんの2人が選ばれた。羽後町役場で8日、褒賞授与式があり、阿部さん夫妻に賞状などを伝達した大江尚征町長は「羽後町の名前を高めていただいた」とあいさつ。アイさんは「縁あって西馬音内に嫁ぎ、編み笠を織る人がいないというので作り始めた。認められてうれしい」と笑顔で話した。

20代女性らしくに伝統技法を教えており、後継者育成が夢という。『毎日新聞地方記事』佐藤正伸
アイさんの受賞の知らせは、いつものように飯塚和雄さんからのメールでの知らせでした。すでに八時を過ぎていましたのですが、テレビ局のサイトの動画でみられるからと教えていただき早速みる事ができました。編み笠づくりの作業をしながらインタビューを受けるアイさんの声を懐かしく聞くことができました。後で取り込もうと思いましたが、どうどうできませんでした大変残念です。



西馬音内盆踊りの編み笠

アイさんの編み笠づくりについてはこれまでも数回に渡って「まどい」でも紹介されていますが、特に最初当時は町に一人だけだった編み笠の作り手池田さんに教える請いに行って何回も年だから教えられないと断られそれでも通い続けた話など、また上質の野草に出会うきっかけなどの話は、いまになって「伝統工芸功労者」といわれるにふさわしいものでした。

先の古希祝いの同級会では、アイさんのお弟子さんが、同級会に彩りを添えてくれたことなどからも後進の育成にもがんばっている話を聞き、あらためてアイさんの活躍のすばらしさを感じたものでした。

アイさんの受賞は「まどい」のホームページでも紹介されています。西馬音内盆踊りは、今や海外でも上演されるまでになりましたが、まさに日本的で、つま先から指先まで人の心を優しくなでる様なしなやかな踊り。そして顔を覆った笠のそりがほのかに白く見える顔、まさに妖艶といわれるおどろいです。はやしと力強いパチがなおさら強と艶のすばらしい魅力を際し出しているともいえそうです。

今度の阿部アイさんの功労を認められたことを機に、また新たな「西馬音内盆踊り」がみられるかもしれません。※指定外産地＝伝統的工芸品でも材料が他地域からの取り寄せになるために指定外産地となるようです。



『地元では、3月29日に「だるま温泉」でマイさんにおめでどうを言おうと集まりを持ちました。特別な祝賀会と言うことではなく、歓談の中で「おめでどう」をもうしあげることにさせていただきました。4月4日AKT秋田放送で放映され、そのインタビューでも話されておりましたが、

編み笠づくりを始めたきっかけや、苦勞はなしや楽しみななどを聞かせてもらいました。五年前に小さいお孫さんを残してお嫁さんが亡くなったこともあり、お孫さんたちの面倒をみながら家事に仕事にと人の何倍もがんばりながらの編み笠づくりでした』

『今回の集まりのもう一つの趣旨は昨年11月30日地元の集まりの時に話があり、前号「まどい」にも載せていただきました。こちらから出かけて行く同期会について、もっと具体的に話し合うための集まりでもありました。みなさんそれぞれお忙しく地元でもなかなか都合がつかないようでした。今回は七人だけの集まりでした。

当日の話し合いでは、こちらから言い出しておいて大変申し訳ないのですが泊まりを伴う遠方への企画は無理ではないでしょうかということに落ち着いてしまいました。

前号では大きな期待を与え楽しみに思ってくださいましたみなさんには本当に申し訳ないことですが現段階での正直なところでは』

(女性中央の方は、大友行さんの奥様です)

飯塚和雄さんからの報告でした

座布団

座布団といえば日本テレビの「笑点」が浮かぶ。あれももう44年も続いているという。ボクの大好きな番組だ。立川談志・三波伸介の司会が一番おもしろかった様に記憶している。

この「まどい」はそれより約10年前からだから先輩だ(なんの?)。「まどい」はやがて僕たちが老齢になり座布団に座っていることが多くなったらきつとこの「まどい」の価値も出てくるのでは・・そんな話もあった。ところが僕たちの生きてきた10年と今の10年では桁違いにその変化が激しく、今じゃほとんどついていけない状態だ。座布団どころかリクライニングの座椅子。ましてや「ヨッコラショ」と立ち上がることもなく電気を消しテレビのチャンネルを変え、お湯を沸かすこともなくポットにはいつもお湯がある。動き回るのに不自由ならば車いすがある。これは便利なのか無精なのか足腰弱くなるための道具みたいだ。それにしても最近のテレビのリモコンは難しくて使えそうにもない。

この年だとまだ座ってばかりもいられないから日頃それなりに毎日を過ごしている。家の中にはかり居るわけではないからたまに届く「まどい」を楽し

しみにすることもないわけだ。まだまだ座布団が空の場合が多い。

「まどい」は二百号をめぐり・・・などと考えてきた、がどうやら座布団と二百号はつながらないようだ。笑点は二千二百二十回に達しようとしているが、どうやら回数問題は問題にならないようで、愛されているかどうかの問題のように。果たして「まどい」もそういえるかどうか?。座布団に座ってばかりでは、愛されるも何も無いもので、この二百号近い時間、実は座布団に座りっきりの感もある。それも「やがて老年になり座布団の上でまどいを楽しみにすることばかりを見つめてきた嫌いがあるからだ。今その年齢の域に達しつつある中で見えてきた。座布団を裏返しすることを忘れていたと言ったことだ。

笑点ではいい答えを出すともうえるがまるで変わらない一枚の座布団。シミも穴もあこうというものだ。それでもそれでも、その穴から何かが見えやしないから、でも相変わらず自分の座っている一枚の座布団だけをいじくっている「これじゃあだめじゃん!」のたぐいでどうして「座布団一枚!」にはなれそうもない。

二百号を前にして、そろそろカバーを掛けないといかんかなとそんな心境だ。(編集室)



羽後交通最後の路線バス

3月30日最後の路線バス(旧仙道中学校下)
羽後町ホームページより

今年の4月から羽後交通の路線バスが廃止になりました。時代の衰勢というのでしょうか、車社会の娯楽なのでしょうね。

その代わりに「うご乗り合いタクシー」の運行と成りました。前日までの予約制で、改めて予約しないと利用できなくなります。それだけ路線バスの利用者が少なくなっているということでしょうか。

6月6日NHK総合テレビで放映

羽後町町制55周年記念 NHKのど自慢

羽後町では、町制55周年記念として、NHK秋田放送局と町の主催で「NHKのど自慢」が実施されることになり、出場者・また観覧される方を募集しています。

六月五日に予定会が行われ、六月六日(日)NHK総合テレビで放送されます。

会場は「総合体育館」

ゲストには、細川たかしさん、伍代夏子さんが出演されます。

NHK松本和也アナウンサーの司会で行われます。

県外の同級生のみなさん、ふるさとのみなさんの「のど自慢」ぜひご覧ください。(広報うごより)

町制55周年。七町村が合併したのは昭和三十年、この年は私たちが仙道中学校を卒業した年でもあります。仙道村が羽後町になった年。つまり私たちがあれから五十五年「まどい」も五十五年ということになります。平成合併から秋田県でも「町」の自治は八箇所になってしまいました。羽後町町制55周年おめでとごうございます。

編集手帖

北海道から岡山までの同級生のみなさん。いかがおすごしでしょうか。お互いに高学年にあれこれと思うこともあるのではないかと

思います。最近のチリや中国の大地震、アイスランドの噴火。肌

に感じる気象の変化等々。4月に入っ

ての大雪は、その前の「スノーマゲド

ン」といわせた米大西洋岸の大雪など

からも地球規模での変化が怖いように

も思えます。

政治では少なくとも保守なれ合いの

政治から変わると思われた昨年8月の

選挙と政権交代。まだ8ヶ月とは言え

しまっておいた不安がここで一気に噴

出という状態です。見守ろうとの気持

ちもあるのですが、今は反民主政府と

ばかり批判が横行する報道の中ではや

はり不安になってきます。言いたいこ

とを言わせてもらえば「頭のいい人ど

うのはどうしてこうバカなのでしょう

うか」と。ならばおまかせがやってみろ

「バカ、できるわけがないでしょう」ネー

さて地元では先月に集まりを持ち、

かねてからの懸案であった「東京方面

での同級会」もいろんな面で無理があ

りそうだと取りやめに成ったようです

が、残念なことでもあります。また別

の企画が生まれましたら是非にお知ら

せを頂きたいものです。

阿部アイさん。とにかくおめでとう

ございます。「伝統的工芸品功労者」

としての表彰。世の中に自分のやって

きたことを認められたということでは

ないことでは。同級生としてとても誇

らしく思います。

4月のはじめに雪が降ったというの

は出くわしたことがありますが中旬に

なっつものというののは初めてのこと

ですね。異常気象といわれますが、本

当は自然なことなのかもしれません。

人間の「生」の時間と宇宙のどの時間

差なのではないでしょうか。地球上に

住む生物の醸し出す反宇宙的な物質排

出の影響もあるかもしれないが太陽

系惑星の時間的流れだとすれば納得で

きょうと言つもの。これ、新しい

学説？。

さて、私たち同級会に集まればみな

さん若く元気そうに見えてもさて戻っ

たらまともにじいさんでありはあさん

です。あちこちと病んで食事のように

薬を食べ……「まどい」もどうやら負

けじとそんな域に達しつつあるよう

です。二百号に向けて、これまでおつき

あいを頂いたみなさんから一言でもい

いから「お言葉」を寄せていただけれ

ばと夢のような願いを持ってあります。

もしそんなお願いが届きましたら是非

にお相手をお願いいたします。